

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「明るく、豊かな、心と心のふれあい」を理念に掲げて、その人らしい暮らしを支えている。		過去3年間の実績に評価があり、おごる事無くますます懇切丁寧な介護を続けていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	明るく豊かな 人と人のふれあいを大切に 心を込めて日々お世話 させていただく事を皆で取り組んでいる。		同上
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の面会や、地域の方々の訪問を快く受け入れ「人と人のふれあい」がある。家族会や運営推進会議等を通してその都度考え方を出席者に説明している。		同上
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	健康散歩中の方々の立ちよりがあり、立ちよりの際には、湯茶のサービスもし入居者との対話も楽しんでもらっている。		同上
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会にも入っており、入居者に向けた行事などへの参加はあり地元との交流ができています。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域に老老介護にて共倒れ寸前や、独居老人の転倒事故などを見掛けた時関係親族に、他グループホームなどへ入居の案内をして、地域の高齢者が安全に暮らしていける手助けもしている。		同上
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価も3回目となり、その大切さを理解しながら臨機応変に改善に取り組んでいる。		同上
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議を昼食時に行ったりし、入居者の食事と同じものを同じ場所で食べていただいたりし、サービスの実際を見ていただき上々の評価もいただいている。機能訓練状況も、過ぎし日の写真などで報告となっている。		同上
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内会長や、民生委員など、昼食時に招き、入居者の食事風景など見ながら一緒に食事を摂ってもらったり、意見もうかがい、サービスの向上に取り組んでいる。		同上
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、本などから抜粋コピーしプリント用紙により学ぶ機会を作っている。選挙の投票支援もし個々の権利擁護支援もできている。		同上
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	わがグループホームでは虐待は全くない。職員は皆虐待の防止徹底は充分に承知している。		同上

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約時には、管理者による重要事項説明があり、理解納得が得られている。	同上
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の不平不満は帰宅したくても帰宅できない事であり、それらは、外部者又は家族への訴えてもどうにもならないことである。盆正月には、その希望を叶える支援もし一時帰宅を家族へ呼びかけはしている。	同上
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的にホーム便りなどで、入居者の日常生活を報告している。金銭は、預かり金台帳で管理し収支については、適時に出納帳を家族に見せ個々に報告できている。	同上
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族などの意見、不満、苦情は常に聞く体制はあり、直接言えない不満などは、匿名で訴えができるようノートなども設置してあるが、開設以来一件も苦情の訴えはなく、むしろ大変に喜んでもらっている。	同上
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の職員会議があり、その場で意見の聞き取りや、職員のレポート提出を運営者が読み、その反映がいかされている。	同上
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	職員の急用や急病時の休みの取り方も柔軟に対応し職員の確保は調整できている。	同上
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員に対しては面接時、入社後3年は離職しない事を申し合わせている。また職員が向上心を持って働けるように支援している。移動や離職をする場合、利用者に説明しダメージを防ぐ配慮をしている。	同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県や、グループホーム協議会が主催する研修などへの参加 ある働きながらのトレーニングも3年実務を踏み介護福祉士の受験も勧め、今年3名の受験もあった。	同上
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他グループホームの職員と、交流を持ち、日頃の仕事の悩みなどの相談もできている。研修なども誘い合い勉強に取り組んでおりサービスの向上に役立っている。	同上
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員同志の懇親会に参加し、日頃見せない柔軟な姿勢が有る事を職員に見せる事で、職員はやわらぎ、和みが出て、ストレスの軽減がある。	同上
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	毎月1回職員を集め勉強会をしている。また毎月レポートの提出を義務付け職員の介護技術の向上を促している。	同上
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	見当識障害があるが、どのような訴えも決して否定せず、そのままを聞き入れる事で、不安が防げて信頼関係ができている。	同上
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	初期の家族からの相談受け入れの時、丁寧な説明をして、家族の他人に介護を任せる不安も十分に理解した職員の受け入れ態勢があり、家族の不安が薄らいでいる。また電話などを通じて生活状況を報告している。	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	例えば病院受診は、「基本的には家族」となっているが、家族の都合で出来ない事が多く、他のサービスとして病院受診や内服薬受取り対応を介助している。		同上
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一つの動作支援事に説明をしながら、納得を得る雰囲気はある。いきなりという事はない。言葉使いも利用者が長年使い慣れた地域の言葉で、丁寧語を使い、場の雰囲気に馴染み作りが工夫されている。		同上
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が悲しい思い出話で泣かれれば共に泣き、嬉しい思い出話をされれば、共に喜び、昨日出来なかった事が今日出来れば、誉めて喜び、職員の笑顔が利用者に伝染し、笑顔が絶えない関係ができています。		同上
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との関係が遠のく事がない様、定期的に食事を共にとってもらい計画も立て、絆が滞らないよう元気な内の思い出を沢山作ってもらい、家族と一緒に利用者本人を支えていっている。		同上
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族との関係も過去には色々難しいことがあったようで、より良い関係が保てない人もある。家族は「自分では悪く言っても他人には悪く言ってほしくない」心理があることを理解し、ここでは丁寧な介護がなされていることを話す事で、より良い関係を取り戻されつつある。		同上
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで大切にしてきた人や場所は、やはり住み慣れた自宅家族である。職員で押さえ切れない帰宅願望の興奮が起きた時はやはり家族との逢瀬であり、面会要請の連絡をとりその関係が途切れないよう支援している。		同上
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合った人とおしの友人関係もできている。自室の分からない人への居室誘導や、全盲者の手を引いたり、入居者同志の助け合いもある。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居し、入院などされた方々のお見舞いや、亡くなられた方の葬儀なども行ったり、家族に必要でなくなった品物など、気軽に頂戴できたり、関係の断ち切りは無い。また入居者の欠員が出た場合、情報の提供をしてもらっている。		同上
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の不平不満は帰宅したくても帰宅できない事であり、それらは、外部者又は家族への訴えてもどうにもならないことである。盆正月には、その希望を叶える支援もし一時帰宅を家族へ呼びかけはしている。		同上
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族から生活歴を聞き取り、この人が一番輝いていらした頃の話を持ち出すことで、「知らない人ではない」これからはこの人と過ごそう的な安堵感がある。		同上
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日のバイタルサインチェックや、顔色立ち振る舞いで、心身状態などチェックでき、総合的に把握できている。		同上
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一月に一度ユニット会議を持ち課題の話し合いをしている。家族面会時には、これからの介護予定なども必要に応じて家族の意見も取りいれている。		同上
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	特変あれば、随時見直しはする。利用者は今とても元気であり、昨冬、今冬風邪などの症状も全くなく、急病などでの病院受診さえもない。変化有れば現状に即していきたい。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に其の人の其の日の暮らしぶりが記録されており、スタッフが読み会うことで、情報の共有ができています。		同上
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	遠方よりの家族の帰省時は宿泊も出来る。事業所の大型バスで年一回の一日旅行などのサービスもできている。		同上
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の来訪もある。ボランティアの来訪もある。消防署や地域消防団の立ち入りもある。地域の芸能見学も出来文化面の支援も出来ている。		同上
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	近所のグループホームのケアマネージャー等と交流もあり、困難時が発生した時に知恵を借りたり貸したりしている。		同上
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	選挙等投票所への引率を介助し、投票させることで、個々の権利が擁護できている。また地域包括支援センターと連絡体制が採れている。		同上
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の係り付け医への定期的な受診も家族に変わりその他のサービスで介助となっている。協力病院もあり、適切な医療を受ける支援は出来ている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の協力病院もあり、診断もされお薬などの処方もされている。		同上
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	掛かり付け病院などの看護師に気軽に相談できている。		同上
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	骨折などで入院し、3ヶ月の診断でも早めの退院を病院などと話し合い退院できた経緯がある。		同上
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	持病悪化で、重篤となり病院が終末を診断のあった方に対しては、関係者と話し合いながら、問題解決プランなどで方針を共有している		同上
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	グループホームは生活の場であり、出来る事、出来ない事はもちろんある。出来ない事の見極めをし、変化に備えての見当や準備は行っている。		同上
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームからの別の場所への住み替えは、たいがい病院であり、本人はそれを殆ど認知できないが、家族との話し合いはできている。		同上

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	昔話に誇りがあり、うなずきながら聞き入っている。プライバシーを損ねるような対応は全く無い。	同上
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	其の人に分かる言葉を使い、自分で決める事を大切に働きかけている。	同上
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	皆さんのんびり、ゆっくりしたペースで一日を過ごされている。其のペースに合わせた生活支援となっている。	同上
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	女性は白髪をきにされている。材料費個人負担で白髪染めをしてさしあげている。職員に簡単な散髪の出来る者がおり、伸びた髪もカット無料でしている。つねに整容保たれている。	同上
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園があり、年中自家菜園で採れた新鮮な旬の野菜で料理ができています。種まきや収穫までの過程が楽しめて、採れた野菜を入居者が下拵えし、職員が調理し楽しみながらの食卓がある。	同上
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは、ほとんどが入居者の好みを聞きながら職員の手作りが多い。飲み物はお茶が大好きで、新茶の頃には、畑でお茶を皆で摘み加工も皆でしたり、日常的にお茶タイムが楽しめている。	同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ使用者は今いない。尿便と、ともに失禁者はいるが、安易なおむつ使用はせず、失敗続いてもトイレでの排泄にこだわり、様子見ながら声かけトイレへ誘導している。衣服濡らし予防の為紙パンツ併用の方もいる。		同上
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	年間元旦を一日休み、毎日入浴サービスはある。入浴を頑固に拒否される方もいられるが、職員はその誘い掛けが上手であり、風呂に誘うタイミング取りが実に上手く入浴剤等で香りも楽しませている。		同上
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	生活は自由で、昼寝、テレビ観賞、気の合った仲間との談笑がある。夜間も不必要な声かけはせず、安眠が保たれている。		同上
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物・散歩・外食・ドライブと張り合いや喜びがある。パチンコ店やカラオケ店などへもおつれしたり、いつでも、何処でも楽しみに満ちた日常である。		同上
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はあまり無く、使い道の分かる方へは、家族とも相談し、少しは持っている方もある。買い物など外出時に、オロナミンCなど好きな物だけ買われるときもある。支払いも本人にさせている。		同上
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	他施設に入居中の親族の所へ面会に出かけたり、墓参に出かけたり其の日の希望によって戸外にできる支援も個別に、十分に出来ている。		同上
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	選挙なども投票所へでかけ、投票させたり、一日日帰り旅行をしたり個別であったり、皆一緒であったり、外出支援も充分できている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の代筆や電話の取り次ぎも気軽に、対応できている。		同上
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	もちろんである。いつでも、何時でも訪問者の都合の良い時間帯にお出でくださるよう常に声かけしている。		同上
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	もちろんである。身体拘束などは、絶対にない。職員は充分理解している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全の為、内鍵はある。急に様子が変わり戸外への飛び出しも有る為であるが、入居者へ圧迫を与える物では無く自由に開け閉めできる程度である。		同上
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼夜を通して、見守りは適切にできており、安全が保たれている。		同上
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤や薬などの保管は徹底しており、安全でが保てている。		同上
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒は時々起きたりしているが、ほかの事故はまだ起きていない。避難訓練や、消火訓練などの取り組みもある。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当など、救急車がくるまでの対処方も消防署職員などからの学びも受けている。		同上
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域消防団の立ち入り等も時々あり、出入口、避難通路の確認も出来ており、災害時の避難援助の協力関係が出来ている。		同上
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	高齢者は諸々の持病を抱えており、起こりうるリスクは高い。家族とも連携し説明もしてある。緊急時の連絡体制も出来ている。		同上
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝夕の引き継ぎは、毎日のケース記録や介護日誌を読みあい口頭での引き継ぎは、しっかりできており情報の共有となっている。問題あればその対応は速やかである。		同上
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局よりの薬の説明書を毎回保管しており、用法や容量の理解はある。薬は職員管理で必要時にその都度配薬して、服薬の支援ができています。		同上
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便においても、毎日のチェック体制がある。飲食物も自家菜園の新鮮採れたて野菜をふんだんに使い、自然な排便を促せる食事の提供も考慮している。散歩などの運動もある。		同上
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアについては、出来る人は声かけで、出来ない人は声かけしながら、誘導介助もしている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	リーダーが「高齢者の食事作り」の研修を1年に1度、鹿女短の福司山先生に学び、持ち帰り、職員へ紹介し日々役立っている。バランスの良い食事の提供ができています。水分も充分である。		同上
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種支援や、食品の鮮度、清潔、あらゆる面から対応できている。		同上
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所はいつも清潔が保たれ、冷蔵庫を過信せず、いつも新鮮な食材の使用がある。		同上
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関には四季の草花を咲かせ、家族の訪れや近隣の人達の立ちよりに親しみをもってもらえる工夫は常に有る。		同上
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は自由があり、寝たり、座ったり、腰掛けたり、テレビを見たり、CDを聞いて歌ったり踊ったり、居心地良い生活がある。季節の花々がテーブルに飾られ季節感の取り入れもある。		同上
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ気の合った方々同志の居場所があり、ソファで語らい居室に隣人を招き談笑されたり、思い思いに過ごされている。		同上

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた寝具、仏壇、ポータブルトイレの持ち込みがあり、本人の安寧な暮らしが出来る様配慮がある。鏡台や、家族用ソファー使い慣れた物の持ち込みもOKである。		同上
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	空調は季節に応じて温度調節され、利用者が過ごしやすい配慮が常時されている。また換気は1日に1回以上はするようにしている。		同上
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分で移動できる身体機能が有れば自由に移動できる事を喜び、まわりの安全には十分に気を付け見守り自立した生活も送られる工夫はされている。		同上
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「わかる力」の乏しい方もあり、失敗の連続の方へも否定せず見守り、手助け、出来た事を喜び合い混乱を防ぐスタッフの努力がある。		同上
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りには四季の花々が咲き外気浴時のいこいがある。玄関バルコニー辺りでお茶を飲んだり、楽しみの空間がある。		同上

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)